

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 118

学校名・団体名	天草市立楠浦小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさと「楠浦」に江戸時代から伝わる 「掘切うた」の伝承
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>地域に伝わり代々伝承してきた掘切うたではあるが、太鼓、三味線と打楽器、法被等の傷みにより、なかなか思うように活動ができていなかった。本年度6年生の児童数がとても多く、貴殿の助成により和楽器ならびに法被等を整え、以前のような活発な伝承活動を復活させたい。</p>	

楠浦掘切うたは、200年も以上も昔、石工の里として知られた本地域一帯でなされていたものである。熊本県の指定文化財「楠浦めがね橋」をはじめ多くの石橋、石細工が残る地域である。この掘切うたは、小学校で代々受け継がれていたものの、平成23年から10年ぶりに天草市の振興計画により復活させようという動きが始まった。この掘切うたを本校のふるさと教育の中心に据えて地域と学校が一体となった教育活動を推進することとし、進めてきた。今年も次のとおり、例年と同様に進めることができた。

1学期から地域の保存会の7人の方々の協力を得て、6年生の総合的な学習の時間を活用し準備を進めてきた。石工、侍、踊り子、太鼓、三味線、歌い手と役割ごとに児童を振り分け、そこに地域の先生を配置し、担任(2人)で指導に当たってきた。何よりも時間を割かれたのは三味線の演奏である。これは、児童が初めてという経験により全くゼロからの指導となった。地域の方々とともに学校で週に1度の練習の機会を設定し、学校で毎週、夜遅くまで練習を重ねてきた。踊りについても指導がとても困難であった。特に着付けをできる方が保護者にほぼ不在で、毎回着付けの先生に來校いただき練習を積んだ。

今年度の練習では、助成をいただいたことにより、これまで借りて実施していた太鼓の練習や法被を着ての歌い手の練習が、きちんと整った状態で毎回練習をすることができたことはとてもありがたかった。これまでは、地域から太鼓や楽器を車の輸送にて運搬し、その都度練習をしてきた。また法被についても地区の祭りが終わるのを待ち、法被を借り練習をしてきた。歌い手は、祭りが終わるまではなかなか衣装を身にまとっての練習はできないという現状があった。道具がないという不便さが、学校での練習の大きな時間を割いていた。

今年度は11月の楠浦地域の文化祭が初お披露目の場となり、多くの地域の方々へ披露した。また学校の代表として天草郡市音楽会への参加、12月には熊本県の音楽研究会のゲスト出演として、天草市民センター大ホールというとても大きな舞台で発表する機会を得た。また地域の老人施設からの依頼を受け、慰問を行う等、幅広く活動を行うことができた。どれもたくさんの参観者から賞賛の言葉をいただくとともに、児童にとっては地域の伝統文化の伝承者という誇りを持たせる場となった。今年は多額の助成により、掘切うたの伝承活動について、これまで不足していた和楽器をはじめとする十分なハード面の準備ができた。そしてこれまでまったくできていなかった地域の方々への謝礼も行うことができて感謝している。また、来年度への準備として、歌や演奏の楽譜を整えたり、DVDとして演奏を残したりしておくことができたことにより、来年の準備をスムーズにできると考えている。長い時間受け継がれてきた文化を伝承することはとても意義のあることである。しかしそのためには人的な支援もさることながら金銭的な援助も必ず必要となってくる。毎年6年生がこの学習を行うことにより大人になったときに学校の地域人材として活躍し、また地域の文化をもり立てていく活動ができ、地域全体が活性化できると考えている。今後も児童数の減少等、天草の抱える課題はとても大きいですが、今回の助成を生かし、今後もしっかりとその役割を学校が中心となり果たしていきたいと考える。

